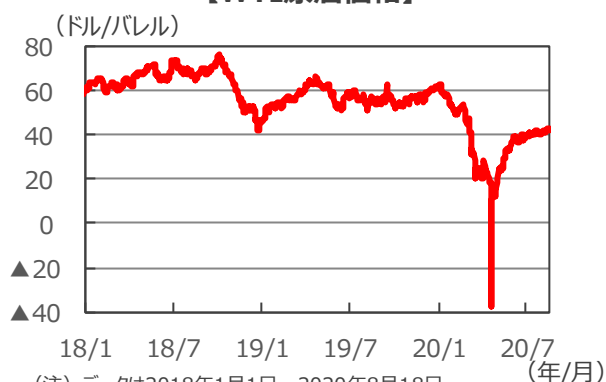


今日のトピック 原油価格は底堅く推移（2020年8月） 新型コロナウイルス感染や米国の生産動向に注目

ポイント1 WTIは5カ月半ぶりの高値

- 北米の代表的な原油指標であるWTI（ウエスト・テキサス・インターメディアート）先物価格は、8月に入り、40米ドルを上回る水準で底堅く推移しています。8月17日には、1バレル＝42.89米ドルで取引を終了し、3月初旬以来、終値ベースで約5カ月半ぶりの戻り高値を付けて引けました。
- 投資家のリスク選好姿勢が続くなか、石油輸出国機構（OPEC）と非加盟の主要産油国で構成するOPECプラスによる協調減産の順守が報じられ、原油需給緩和への懸念が後退したことが好感されました。

【WTI原油価格】



(注) データは2018年1月1日～2020年8月18日。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【世界の原油需給見通し】

	2019年	2020年	2021年
世界需要	99.7	90.6	97.6
供給	99.7	90.6	97.6
非OPEC	70.4	67.3	68.3
OPEC	29.3	23.4	29.3
需給バランス	0.0	0.0	0.0

(注1) 需給バランス＝供給－需要。

(注2) 単位は百万バレル（日量）。

(注3) 2019年は実績見込み。2020年、2021年はOPECによる予想。ただし、2020年、2021年のOPEC生産量は全体の需給が均衡するとの仮定のもとでの弊社算出値。

(注4) 四捨五入の関係で、OPEC、非OPEC供給量の合計は必ずしも全体の供給量と一致しません。

(出所) 「OPEC月報」のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ポイント2 OPECは2020年の需要予測をやや下方修正

- 8月12日に公表されたOPEC月報8月号によると、2020年の世界の原油需要予想は日量9,063万バレルと、前月の同9,072万バレルからやや減少しました。前年比では同906万バレル減少すると予想しています。
- 2021年の原油需要は、同9,763万バレルに回復すると見込んでいます。2020年比で同700万バレル増の見通しを維持しました。これは新型コロナの感染拡大による混乱が世界的に収まるとの想定に基づいています。

今後の展開 コロナ感染や米国の生産に注目

- 原油価格は、新型コロナの影響で落ち込んだ経済活動の再開に伴う原油需要の回復見通しを背景に、大きく値を戻してきました。OPECが公表した8月月報では、2020年の世界の石油需要見通しがやや引き下げられたものの、相場の反応は限定的でした。
- 今後は、主要産油国の協調減産の動向に加えて、世界で歯止めがかからない新型コロナの感染拡大の動向や、原油価格が40米ドルを上回ってきたことで採算が改善するシェール企業を中心とした米国の原油生産の動向などが注目されます。

**ここも
チェック!**
2020年8月12日 吉川レポート：マネーフローの現状と展望
2020年7月20日 原油価格は緩やかな上昇傾向（2020年7月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。